

青江 推進部会長が資料 31-1 (ASTRO-H の事前評価結果) を 10 分弱で説明した後、2 分弱の意見陳述があり、ASTRO-H の開発研究段階移行が決定された。(推進部会での議論に従い、「評価結果」の(1)「プロジェクトの目的」に「若い研究者や学生に開発の過程を広報すること」が追加され、(2)「プロジェクトの目標」の「基礎研究としては巨額の税金...云々」が削除された。)

松尾委員長:ご意見御座いますか。

森尾:あの、まああの、ASTRO - G、Hと引き続き2つ科学衛星がありましてですネ、特にHの方は私が非常に馴染みの薄い X 線とかガンマ線だったんですけども、此の議論を通して強く印象残ってるのはですネ、此れをやられるサイエンティストの先生たちが、勿論此れホントにリーディング・エッジの事にチャレンジされてるんだと思いますけども、所謂工学的な面でもですネ、非常に最先端のものに挑戦されてて、まあセンサなんかですネ、でまあ、そう云う処が日本の斯う云う分野が世界のトップレベルに在ると云う風に言われる所以ではないかと云う風に、非常に強く印象を持ちました。ですから、あの、まあ前後して議論がありました実用衛星の方はですネ、まあ勿論実用衛星ですから余り冒険的な事は出来ないの分かりますけど、ま、せめて全体衛星の重量の例えば 1 割位はですネ、此の科学衛星に見られるような非常にチャレンジングな試みを実用衛星でもやってみるとですネ、日本の実用衛星のレベルももっと上がるんじゃないかなと云う風な印象を持ちました。

松尾委員長:御座いますか? はい、(暫く聞こえない)推進部会長(割舌が悪くて聞えない)

青江:難しいんですよ、分かんないんでネエ。ヘッヘッヘ。

松尾委員長:高橋さん、何か付け加えることありますか。

JAXA 高橋:いえ、有難う御座いました。

青江:何か一言あったらね、有った方が良いんじゃないですか。

JAXA 高橋:いいえ、評価頂きまして有難う御座いました。

松尾委員長:はい。それでは二つ目に参ります。